

歌川広重
浮世絵めりえ
にチャレ〜ン〜ン!

2020年8月
発行：大津市歴史博物館



【丸清板】東海道五十三次 五十四 大津 弘化4年（1847）本館蔵

大津絵は江戸時代の人気キャラクター!



藤娘
おまじないの効果
・良い縁がある



鬼の念仏
おまじないの効果
・こどもの夜泣きを止める

江戸時代、「大津絵」は東海道を歩く旅人たちに人気のお土産物だったんだ。この絵にも「大津絵の店」がにぎわっている様子が描かれているね。大津絵は、鬼や猫などたくさんキャラクターがいて、それぞれに色んな効果があるおまじないのお礼としても売られていたんだよ。

一、浮世絵とは？
浮世絵は江戸時代の前期にできた絵画のジャンルだよ。描かれるテーマは暮らし、流行などで、白黒の墨絵から始まったんだ。のちに彩色がされるようになってカラフルになっていったんだよ。
一、歌川広重はどんな人？
歌川広重は江戸時代に活躍した浮世絵師だよ。日本の名所やきれいな風景を描く名所絵が有名で、広重の作品は日本だけじゃなく、海外でも人気だったんだ。ゴッホやモネといった画家達にも影響を与えるくらいすごい人なんだ。



どんな絵なの？

この絵は、歌川広重が「東海道五十三次」という作品の中で「大津宿」を描いたものだ。江戸時代、江戸から京都をむすんでいた東海道にあった五十三ヶ所の宿場町を描いた作品なんだ。宿場町は街道の中継ポイントで、旅人達のための旅籠（今でいう旅館）が集まっていたから、当時とてもにぎわっていたんだ。この絵は、東海道で大津と京都の間にあつたきついで道で有名な逢坂越近く大谷・追分を描いているよ。このあたりは旅人がたくさん通ったので、休憩用の茶店やみやげ物屋が集まっていたんだ。左上に描かれているお店が「大津絵の店」だよ。江戸時代、大谷から追分のお土産として大津絵は全国的に知られているキャラクター絵画だったんだ。一番有名な「鬼の念仏」が大きな看板になって、店先に飾られているのが分かるかな？
大津絵を買う旅人やけんかをしている人など、街道を行き交う人々の姿が生々しく描かれているね。

ぬりえができたら、ツイッターに
#遊ぼう大津れきはく
のハッシュタグをつけて
ぜひ投稿してね!

